



エアリーク対策としてのクリオシールの有用性と 効率的な院内運用のポイント

福井 高幸先生 愛知医科大学医学部外科学講座（呼吸器外科）

クリオシール調製量

- 400mL採血が361人、
400mL以内採血が46人であった。
- 自己血漿量は平均 258 ± 32 mLであり、
クリオシール調製量は
平均 6.1 ± 1.6 mLであった。

牧野 茂義. 自己血輸血. 2017. 30(2): 207-214.

当科での
200ml採血*で生成できた量

平均: **3.78ml**

200mlなので鉄剤などの前処置は行っていない。

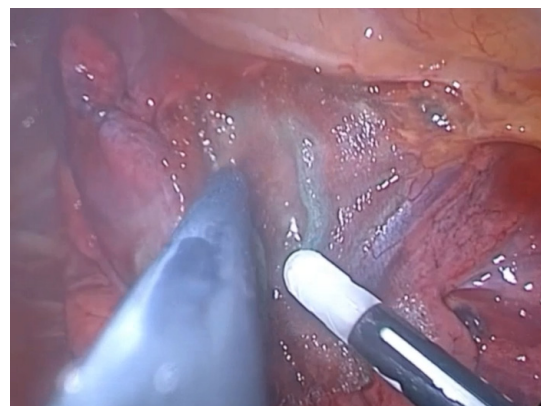
*200mL採血の可否については院内でご確認ください。

使用動画

使用例1

PGAシート上から散布

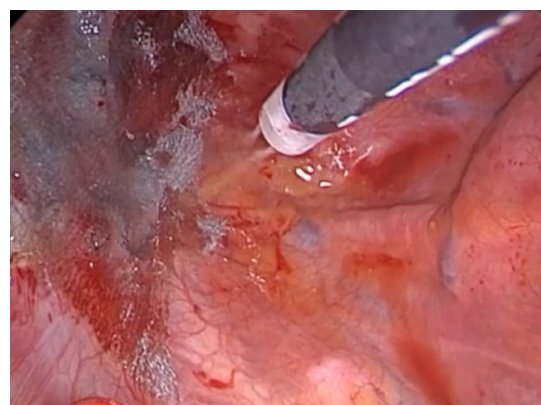
「すぐに固まらないので、
多少修正が効くのがメリット。」



使用例2

胸壁面

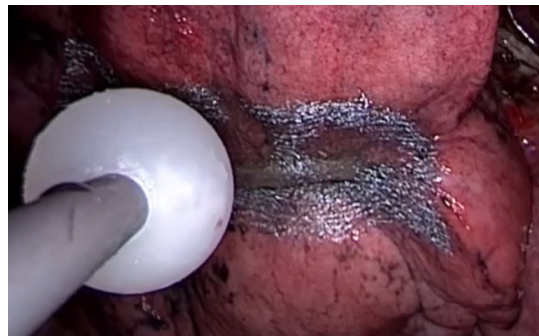
「垂れて流れるほど
さらさらではない。」



使用例3

2液を別々に刷り込む

「両液同時噴霧が基本ではあるが、
A液とB液を別々に使用することも可能。」



使用例4

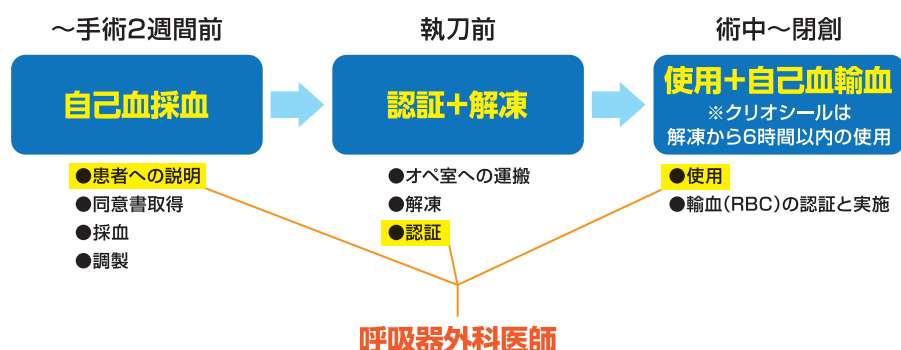
ロングスプレーセット

「曲がっていることを利用して
色々な場所に散布できる。」



ロングスプレーセット
動画

クリオシール使用までのフロー



呼吸器外科医師の
仕事は
あまり増えていない。

輸血部がKey

輸血部の負担となる自己血増加予測
を伝えて、実施可能と判断された。

	1週間あたり
自己血 増加件数	3.9件

他部署の協力が重要である。
患者さんの受け入れは極めて良好だった。